

武徳編年集成

九十二
九十三

御家

和書門類		
二	三	一
六	二	一
五	〇	册

原文・間内		
二	三	一
四	九	五
二	〇	册
四	架	類

内閣文庫		
番號	和 23111	
冊數	50 (50)	
函號	149	116

第二



淺草文庫

武德編年集成卷之九十一

二和元和二丙辰年

是日老臣奉多佐渡守正信享年七十九歲二以歿不

良臣也法善德上稱善①十日越後忠輝朝臣ノ鼻原花井主水

幾雄目付役安西右馬允办詩論台德公御真二召

決事ラ此此至水力父三丸郎ハ神君又近習也シ力

志輝朝臣ハ異父ノ姉二嫁又越二忠輝朝臣ハ附屬七

方ハ便安ニ人太冬保石見守長安ハ相睦シ力リシ方

出參齋叢書

武德編年集成卷之九十一

一

忠輝朝臣ノ母堂幸下メ時ニ神君へ願ヲ遂ラル故
漸之御許答ヲ得テ段ニ三九郎登庸シ頃年遠江卜改
元老ニ列シ其子主水義雄モ始駿府ニ昵近セシカ其
又志輝ハ屬セラレ父遠江程ナク死メ主水遺跡ヲ繼
之又安西右馬允ハ忠輝朝臣ノ歩卒ニ召抱ラレシカ
甚夕心ニ應シ當時目付役卜派三百石ヲ領ス蓋シ花
井卜安西力爭論ヲ起ル所以為去年夏森山ノ驛ニテ
台徳公ノ臣王輩ヲ越後ノ士平妄リニ殺害セシテ冬
ニ及テ神君人台聽ヲ驚シ頻リニ解死人ノ御沙汰
ニ至ル彼鬪争ノ起リハ山田將監組ノ士卜石谷縫殿
众力支配ノ島邊以卜富水大學力組ノ歩卒卜三人也

云云凡多勢馳集ルテ關東人小十人士ヲ所ケレハ執
ヲ相卜卜決シ難キ處右三人恐懼メ遂電セシカハ此
上ハ越後ノ老臣ヲ江府へ召テ穿鑿ヲ遂ラルヘキハ
必定也其節何ヲ以テ陳謝ヲ成サン定テ其科元臣ニ
歸スヘキ歟安西右馬允ハ始メ文右衛門卜云シ時ヨ
リ越後ノ長臣奉行ノ私曲ヲ知レハ後難恐ルヘシ其
上元來大樹ヨリ附屬ノ士ニ非ス當家ニテ登庸セ
シ者大レハ壓ヘテ渠ヲ右喧嘩ノ相手卜稱シ是ヲ誅
シ申據クヘキ由長臣等姦計ヲ企テ安西力討手兩人
ヲ定ムル此事安西漏聞テ大ニ驚キ怒リ所詮花井主
水等ホ不忠ヲ有リ儘ニ言上シ第一忠輝朝臣難波ノ

戦場へ遅参ノ誤リヲ申凌ント欲シ越後ヨリ東武へ
微行メ越後上總介家臣安西右馬允主君ノ罪責ヲ申
披ント訴ルユヘ花井ト對決ヲ遂ラル處ニ安西謹テ
曰主君忠輝去年五月五日南都へ着セラル般若坂ヨ
リ法隆寺迄ノ間ニテ伊達政宗カ使節苗ノ胴版ヲ着
シ馳來リ伊達家ノ備ト越後ノ備ノ間上道三里隔ル
早ニ備ヲ進メラルヘキ吉山田隼人ニ達ス隼人則先
隊花井五水ニ是ヲ告ト云ヘ臣主水怯弱ニメ敵ヲ恐
ルニカ故彌遲滞シ五里計隔ルト不忠ノ第一也次ニ
其夜國分ヨリ政宗カ切紙到來ス是ハ大阪勢出張ス
早ク旗ヲ進メ一戰ヲ遂ラルヘシト軍監ノ面ニヘ伊

達先鋒ノ片倉ニ下知ス政宗モ急ニ國分カ馳至トス
越後勢モ早ク押着合戰有ケキ趣也則花井主水ヨリ
山田將監ニ是ヲ達スル處只今羽林睡眠セララルカ
ラル時ニ披露スヘシト刻ヲ遷ス忠輝ハ急ニ押行ヘ
テ下知因テ先隊ノ將松平大隅守山田隼人松平出羽
守清直同筑後守信直段々ニ押行ニ水スル時花井主
水來テ去年冬陣ノ節使節トメ難波ニ至リ真田カ丸
ヲ攻ル刻臣其振怯キト東武ニテ風説セシ肯慣ルニ
堪タリ是非今日ノ一陣ヲ勤ヘキト訴望シ間道ヲ歴
テ先へ進テ右ノ四隊ヲ押ヘ留メ忠輝附庸ノ兩大將
溝口村上下續ギ二陣ニ列シナカラ果敢ニ、ニ夕道

出參齋農誓 武惠編年集戊辰九十一 〇三

打倒... 武... 卷九十一 (三)
ヲ急ス漸ク忠輝國分へ至リ玉へハ軍終レル後也是
主水カ懦弱不忠ノ第二也其時皆川老圃齋來リ真田
以下今以備ヲ立ル是非一戰ヲ遂ラルヘシト諫言セ
シカハ忠輝ヨリ政宗ニ此下ヲ骨議セラル處仙臺ノ
先陣ハ今朝ヨリ後藤ト鬪テ手負多シ只今着陣スル
士卒ハ甚夕疲ル殊ニ日既ニ西山ニ没セントス夜軍
ハ又危シト云リ重テ皆川ハ主水ニ向ヒ幸水野日州
カ大和組敵ノ跡ヲ躡テ戰ハント欲ス是ヲ朋勢ニ成
メ是非一戰セラルヘシ此敵ハ引色也慕ヒ撃ハ勝下
ヲ瞬息ノ中ニ得玉フヘシト諫レ氏政宗カ戰ハサル
ニ託シ主水曾テ兼引セヌ最モ皆川カ再往ノ諫ヲハ

忠輝へ達セヌ是主水カ第三ノ罪也翌七日ニ出陣以
前忠輝ノ前へ主水來リ佐野修理カ方ヨリ浪客一人
召抱ラルヘシトテ漆簡ノ者遣ス由ヲ披露ス忠輝ハ
此場ニ於テ何ソ其沙汰ニ及ンヤト宣ヘ氏主水
益ノ詞ヲ重テ竭シ寓然ト刻ヲ遷シ大坂落城以後ニ
着陣セララル是主水カ第四ノ罪也走ヲ償ニ爲ニ政宗
ノ催促ヲ忠輝へ山田將監カ告サル下ノニ、神君へ
披路セシユへ遂ニ山田改易ニ及ヘリ是主水カ第五
ノ罪也愚臣兼テ花井等カ私曲ヲ知ル下詳ナルヲ以
テ是ヲ憎ミ幸森山ノ驛鬪争ノ相手ト拊シ討手ヲ遣
スヘキ企ヲ成ヌ最モ君ノ爲ニ命ヲ棄ン可臣タル者

ノ職分也ト云へ凡假令臣死タル凡畢竟賊臣等カ邪
由ニ覆ハサレ忠輝社稷ヲ失ハルヘキヲ歎クニ堪タ
ルニ依テ暫ク死ヲ遁レ訟ヲ成スト云々然ルニ花井
ハ佞口人ニ超ル故詳カニ申閉キ勝劣決シ難カリシ
處ニ安西カ曰至水ハ三九郎ト云時公儀へ昵近シテ
宮中ノ下ヲ胸中ニ量リ知音ノ輩モ乏シカラズ自然
ニ理有ルカ如シ微臣ハ邊鄙ノ野夫儘ニ侍ノ員二人
ノミニメ公邊ノ下ヲ知ラス尾籠ノ儀ハ訴フヘキ下
ヲモ御前ヲ憚リテ黙止ス旨ヲ言上ス 口徳公ハ理
非決斷ノ席ニテ何ニソ謂フヘキ下ヲ漏スヘケンヘ
重テ僉儀ヲ遂ラルヘキ間尾籠ノ下ニテモ苦シカラ

八

ス有レ儘ニ演説スヘキ旨 御誕アリテ雙方迄公ス

○十二日里テ花井安西ヲ御前ニ召テ決セララル右馬
允カ曰今度上總公元老四人中ニ就主水カ調略ニ因
テ切ナクメ六千石宛増封セララル然レ凡各侍一八モ
控ヘス家中ノ足輕頭迄四手ニ分割メ四臣是ニ預テ
已ニカ軍役ニ九ル下私欲之至極也又往年佐野修理
ヨリ下セウト言駿駒ヲ忠輝へ送ケルヲ花井主水
燦ニ議ヒ安テ能クヒカ方ニテ乘立新治清三郎ト云
フ馭者ニ高金ヲ得テ賣ケレハ渠又尚モ逸足ヲ乗出
シ無類ノ駿足ト成志輝彼ノ駒タル下ヲ知スメ洛陽
本國寺ニガテ一覽ノ上黄金七枚ヲ以テ買得玉七越

八

後へ歸國ノ刻加賀ノ大守所望ニ依テ是ヲ送ラル且
又越後家へ年來呉服ヲ賣ケル大商ヨリ主水夥シキ
錦繡ノ類ヲ取置其價ヲ渡サス剩へ是ヲ催促スルヲ
憎テ大文字屋卜號スル呉服所へ越後ノ用達入へキ
旨ヲ令シ大文字屋ヨリ余六七百兩ヲ借テ右ノ催促
セシ呉服所へ是ヲ濟シタルヲ國中ニ知ラサル者ハ
シ僉議ヲ遂ラレテ可也且主水淫行殊ニ尾籠ノ罪ア
リ御前ヲ憚カラサルニ似タレ斥御免ノ上ハ言上ス
へシ忠輝簾中ノ女房然モ漸ク中居ヲ勤ケルカ馬廻
リノ士卜密奏シ懷妊ノ是ヲ隱ニ示キ用テ請御テ
仕カ妻ト成シ又主水漏聞テ彼士ヲ自殺アラシメ已



ハ又於茶阿ノ御方ノ小姓女朧於熊ト云へルニ密通
シ妊孕ノ上信州須坂ノ租税ノ吏ニ彼女ヲ預ケ置由
ヲ述レハ忽主水屈服ス爰ニ於テ花井罪ニ飯シ獄舎
二人レラレケル安西ハ主君ノ誤ナキヲ申閉シトス
ル下人御感ヲ蒙リ營中ヲ退去ス○是日城州伏見ノ
役所ニ於テ日下部兵右衛門定好卒ス○十三日播磨
ノ親王從四位下行侍從兼武藏守源朝臣利隆享年三
十三歳ニメ武江ニ平ス是ハ池田參政輝政ノ長男母
ハ中川清秀カ女也一合徳公ヨリ大炊頭兼赤頭ヲ以
テ御香奠白銀百枚ヲ授ケル且遺領ヲ嫡子新太郎ニ
是ヲ賜ト云々



○傳曰勃太郎元和三丁巳九歳ニメ播州ノ領知三十二萬石ヲ轉シ因幡伯耆ニ移ル時ニ彼祖父輝政歿後分知ノ伯父三人ハ播州ノ地ニ残り赤穂瀧野完栗ノ三城主タリ新太郎翁年ヨリ斂ニメ學ヲ好ミ英才ノ稱ヲ得ル同九癸亥年元服大猷公ヨリ御諱字ヲ賜光政ト稱シ正五位下侍從ニ叙任シ寛永八辛未年從四位トニ叙シ右少將ニ任シ同九年申年山陽ノ要地備前一國並備中ノ内ニテ元高ヲ授ケラル其時備前ノ當上池田庄五郎後松平相模守光仲是也ヲ以テ因伯二州ニ移サル

○廿九日播州高槻ノ城主内藤紀伊守信政ヲ以テ伏

見ノ假城代トセラル御使番阿倍四郎五郎正之二徒同心弓ヲ業トスル者五十人ヲ附屬ヒラル乎平ノ頭高木九兵衛光正ヲ以テ問宮左衛門信盛ヲ跡役トシ惣吏ノ徒同心五十人ノ隊長ト成ル其跡組歩三十人ヲ以テ安倍彌一郎ニ附屬シ玉フ○是月諸士軍役ヲ定メラル

- 一 五百石 鉄炮一挺持 槍凡二三本
- 一 一千石 鉄炮二挺槍五本 弓一張騎士一人
- 一 二千石 鉄炮三挺槍五本 弓二張騎士三人
- 一 三千石 鉄炮五挺槍十五本 弓三張騎士四人旗一本
- 一 四千石 鉄炮六挺槍二十本 弓四張騎士五人旗二本

一五千石 鐵炮十挺槍二十五本弓五張騎士七人旗二本

一一萬石 鐵炮二十挺槍五十本弓十張騎士十四人旗三本

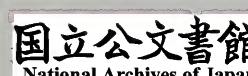
一右可相守者也

一元和二丙辰年六月

一七月小

○二日上總今忠輝朝臣江府淺草ノ別墅ヲ避三縁山増上寺ニ入玉七觀智國師ニ據テ愁訴ヲ遂ラレ然ルヘシト土井大炊頭酒井雅樂頭力方ヨリ是ヲ告ル故則増上寺へ趣キ蟄居アリ○五日上使トメ近藤石見守秀用神尾刑部少輔守世増上寺塔中上總介忠輝朝臣ノ宿院ニ至リ神君ノ御遺命ニ依テ越後國並信

州川中島是ヲ没収セラレ勢州朝熊ニ往テ閑居セラ
ルヘキ言ヲ述ル時ニ忠輝ノ曰臣何ニソ仰ヲ拒ニヤ
遠夕勢陽ニ趣ニ及ハス死ヲ爰ニ賜ラン旨御返答
リ而使此赴歸テ報ス台徳公ハ努ニ忠輝生害有ヘ
カラス先考ハ羽林ヲ懲ラサルヘキ爲ノ配流ナルヘ
シ早速朝熊へ至ルヘシト御教訓ニ及フユヘ忠輝謹
テ此旨ヲ兼服セラル神君ヨリ賜フ處ノ相國寺ノ
茶入信國作波游ノ利刀ハ天下ノ重器ナレハ是ヲ官
庫ニ收ント諸ヒ玉フ然レ凡是先考ノ御相傳タル上
ハ二色氏ニ何國迄モ隨身セララルヘキ旨御下知有是
ニ於テ遂ニ此二品ヲ大炊頭利勝ニ預ケ置ルト云々



則忠輝ノ居城越後高田ノ本丸在番酒井左衛門尉家
次二ノ丸ヲハ牧野駿河守忠成堀丹後守直寄三ノ丸
ヲハ真田伊豆守信幸仙石兵部少輔好俊是ヲ請取守
ルヘシ忠輝ノ臣野見ノ松平大隅守重勝力居城三條
ヲハ保科肥後守正光在番スヘシ山田隼人力居城長
岡ヲハ諏訪出雲守賴隣在衛スヘシ長澤ノ松平筑後
守信勝力居城絲魚川ヲハ溝口伯耆守宣成是ヲ守衛
スヘシ最モ國中ノ事ハ酒井家次是ヲ沙汰シ御使番
佐久間河内守政實山代宮内少輔忠久山田十太夫重
利山本新五左衛門正成横田其右衛門尹松村瀨左馬
介重治ヲ以テ監使トセラル信州川中島松代花井主

水カ守ル城ヲハ小笠原右近太夫忠政是ヲ請取守ル
ヘシ監使ハ阿倍四郎五郎正之二命ヒラレ各御黒印
ヲ頂戴ス

- 一 喧嘩口論堅令停止畢若於有違犯之輩ハ雙方
- 一 可令勒罪馮一令荷擔者其烈可重於本人事
- 一 不可押買狼藉並不可伐採竹木事
- 一 今度在番中人返之儀停止之事
- 一 其所之名ハ其所二可留候但主從相對次第可
- 一 任其覺悟事
- 一 未進方又八年季差置男女之事令奔損令各在

所二可相留事... 右之趣可相守此旨者也

其元和二年七月五日 御黒印

十一日右ノ面ノ入老臣下知狀ヲ授夕

一 夏成者納之事

一代官部奉行町奉行者如前ノ可有之事

一 弓鐵炮竝玉藥長柄之外武具城二可殘置筈之

事

一 在ノ二札立可申筈之事

一 御朱印衆之事

一 奉公人家在番衆へ相渡へ夕筈之事

附戸立具以下散シ申間敷筈之事

元和二年七月十一日 老中連判

○十二日上總介忠輝江都ヲ發セラル其臣榎木左京

千本掃部久世左近長谷川權左衛門近藤十郎左衛門

富永九兵衛戸田采女山田大藏明石志摩介戸田角彌

河村長左衛門淺野左内等二十二人歩卒少ク隨逐ス

行程警固ハ近藤石見守也○十四日忠輝相州小田原

ノ驛ニ至テ君臣共ニ斷髮ス松平大隅守軍勝ハ近藤

附屬ニハ改易ニ及ハス一旦越後ニ赴キ土地ノ圖帳

事御目付人渡之城ニ引渡シ歸參スヘキ旨命セラ

レケルカ遂ニ翌年總州關宿二萬六千石ヲ賜リ後ニ
遠州横須賀ニ移ル○是日上州西方ノ領主藤田能登
守信吉信州費川ト屋護原ノ間鳥居峠ヲ麓奈良井ニ
於テ享年五十九歳ニメ卒ス是ハ去冬信州諏訪ノ温
湯三七日浴シケルカ腫氣黃疸ノ萌ニテ煩悶怔忡ノ
症加ハリ今夏迄疾ニ臥テ漸ク此間洛陽ニ登リ良醫
ニ委ント中山道ヲ歷ル中途ニテ歿ス信吉實子無ク
吉江藤左衛門定景ヲ嗣子トセント欲ス此事今以老
中迄願望セサリシカハ遂ニ領知一萬二千石ト其妻
ニ慶長庚子以後下シ玉フ三千石凡ニ皆没収セラレ
遺跡斷絶ス○十五日小野次郎右衛門志明ハ初メ御

子神典膳ト號ス坂東ノ住人伊藤一刀齋カ劍術ヲ傳
唯授一人ノ明達六十餘州武者修行メ其業ヲ施シ佳
名四海ニ溢ル是ニ依テ大番衛ニ列シ或ハ信州上田
ニ於テ太刀討メ先登則七本槍ノ一員ニ入或ハ武州
膝折ノ邑ニテ命ヲ蒙テ惡徒ヲ誅シ逐日聲名藉甚々
リ台徳公其術ヲ御修練有テ蘊ヲ究メラル土井人
次頭青山伯耆守ヲ始若干其門第タリシカハ蒙放ニ
以衆人ヲ憚ラサルニ至リ一日大坂表ノ鬪話ニ及テ
忠明カ曰今度裏崩ノ刻吾等カ同役ノ諸道具奉行ノ
内敗走スト云リ中山勘解由昭守ハ伊藤新十郎カ姻
家ニハ聞ニ忍スメ新十郎ニ告テ彼敗北セシハ孰ナ
出參

打倒... 郎清正石川市右衛門二胥議シ此敗言ヲ得テ姓名慥
ナラサレハ同役皆怯弱ノ誹リ是非御僉議ヲ遂ラレ
次郎右衛門忠明ト對決スヘシトテ右ノ趣ヲ老中迄
訴陳ヲ獻スル處此事既ニ時移リ事忝テ今更御僉議
有ヘキニモ非ス殊ニ先考常ニ江府ノ御成敗嚴密ニ
失ス今少シ緩悠ナレトノ尊命ヲ堅ク大樹守ラ
セラル故言上シ難シト稱シ黙止サシメシトスル故
各憤ヲ含ミケルカ今日敢テ出仕ノ期ニ右ノ誹罵ヲ
獻スルニ因テ是非ナク以テ御臺所ニ於テ僉議ヲ
遂ラルルコト而度石川市右衛門ト次郎右衛門諍論互ニ

證據ナシト云ヘ氏雄辨ノ忠明頻リニ申募リ石川雌
服セント見ユル時山角又兵衛進ミ出互ニ證據ナキ
論ハ無益外ニ敢テ臆セシ者ナシ次郎右衛門敗北ノ
證據アリ榊原遠江守歿スト云ヘ氏其家臣等ニ尋サ
セ玉ヘト云ニ則榊原カ臣ヲ召ケル處使番寺島齊之
丞ヲ出入渠カ曰猪ノ捺物ニテ驪ノ馬ニ乘シ勇士遠
江子カ蒲ノ中へ乗込シユヘ是ヲ答ケルニ御旗本ノ
諸道其奉行ト答フト云ニ然ラハ次郎右衛門也其故
ハ忠明カ子又助忘方後稱次郎右衛門御出陣以前無雙ノ大
馬ヲ買得タリ五月六日ノ晚父ニ見セケレハ此人如
太馬ノ口強ク破リ氣アルニ乘ラハ心ナラス深入シ

横死ヌル者也トテ忠明平日能ク乘入レシ馬ヲ又助
ニ授ケ被沛芬ノ馬ニ忠明乘替テ七日ノ戰場ニ趣ク
所果メ兩度騎出ル吉兼ク土井大炊頭存ラシタル由
ヲ述レハ其赴傍ヨリ利勝則認人ト成尚モ山角又兵
衛申披ントスル時台徳公御座ヲ立セ玉フ山角類
ニ申ツノラント欲メ今少シ勝劣ヲ聞セ玉フヘシト
述凡遂ニ雙方閉門其中ニ石川市右衛門ハ改易ト云
○慶長日記ニ著ハス處斯ノ如ク昭代實録ニハ始
老臣ニ訴レ凡黙止メ果サス彼輩彌怒テ御成ノ時
神田橋ノ中央ニメ訴狀ヲ捧ントスレ凡兼ニ此事
上聞ニ及ヘル歟御取上モ是ナキ故十五日大名出

仕ノ折柄ニ訴狀ヲ獻シケル處御直裁ニテ雙方閉
門ニ及ニテ元和九癸亥年七月十五日各免許ヲ蒙
ト云々
○頃日天海僧正上洛ニ依テ幕府ノ歩卒一隊路次ノ
衛護トセラル僧正上京ノ先君ノ神號ハ宣下ノ
事御願ノ由内ニテテ叡旨ヲ窺フ處早速ニ勅許ア
ルヘキ密ニ詔ヲ家リ所司代ニ告テ東武ニ達スト云
久能山ノ神廟拜殿樓門花表筆駿參議中將頼宣御
經營ヲ沙汰セラル○廿日忠輝勢州朝熊ヘ到着アリ
テ金剛證寺ニ塾居セラル彼寺ハ魚肉ヲ禁斷メ地々
ルノ近藤石見守武揚ヘ歸參シ言上ニ及ケレハ遂ニ
出參翁養書 武徳廟年集卷九十一 〇十三

波麓妙高菴ニ遷サレハ...

○按ルニ翌丁巳四月ヨリ九鬼長門守守隆ニ仰

セ妙高菴ヲ稠夕驚固シ其明ル戊午三月五日九鬼

並瀨東リ監使中山勘解由路次ヲ守護シ飛彈國へ

配流セラル遙カ年ヲ經テ信州諏訪へ遷セラレ天

和三癸亥七月三日九十二歳ニメ薨スアリト云

○廿七日花井主水ヲ常州笠間へ謫流セラル安西右

馬允ハ舊臣ニ非ヌメ主人危ヲ避シト訴へ出ルヲ

賞シ越後ノ先知ヲ賜リ御家人ニ列シ玉フ○是月酒

井備後守忠利ニ武州ノ内七千石本多三彌正重ニ下

總相馬ニ於テ采邑ヲ賜フ○横山甚左衛門正次初テ

台徳公ハ仕フ○年貢米當秋ヨリ三斗七升ヲ一俵ト

定口次味氏ニ一升ヲ加ヘ以納スハ錢納ハ百文ニ

三文宛ノ口錢ヲ取御領私領氏ニ相守テ収ムヘキ由

ヲ元老ヨリ觸促スト云

八月大 二十日

○十二日大御番頭水野備後守分長ニ江州ノ内二千

石ヲ加ヘ玉フ舊領合テ一萬二千石也○廿日伊畿利

國ノ商船長崎へ入津メ制令ヲ下シ玉フ

條

一自伊畿利須至日本國渡海之商船於平戸可賣買

他所不 雖遭風濤之難至本邦之地者不可有異

出參 武 備 年 集 卷 之 十一 十四

和傳... 儀竝諸役免除之事... 一船中資財賄所目錄可取寄事... 一不可有押買狼藉事... 一狹國人若有病死之輩者其荷物不可相違事... 一船中之商客於有罪科者任其國法可隨其船主之意事... 元和二年八月二十日... ○是日會津ノ監使歸府又... 其外諸國ノ巡察使... 酒井... 雅樂頭忠世三上州大胡伊勢崎三萬三千石ヲカヘ玉... 松平豊前守勝隆阿部左馬今正吉大御番頭ト成... 九進藤五左衛門炮銃ノ隊長ト成ル○横山左門典知

儀竝諸役免除之事
一船中資財賄所目錄可取寄事
一不可有押買狼藉事

一狹國人若有病死之輩者其荷物不可相違事
一船中之商客於有罪科者任其國法可隨其船主之意事

元和二年八月二十日

○是日會津ノ監使歸府又
其外諸國ノ巡察使
○酒井

雅樂頭忠世三上州大胡伊勢崎三萬三千石ヲカヘ玉

○松平豊前守勝隆阿部左馬今正吉大御番頭ト成

九進藤五左衛門炮銃ノ隊長ト成ル○横山左門典知

後任土佐守 采邑五千石ヲ賜フ是ハ加州ノ元老山城守長

知刀次子ニテ主人證人トメ在江戶スル處也

老中

覺

一白井渡 一厩橋 一五科 一本木 一葛和田

一河股 一古河 一房川渡 一栗橋 一關宿

一七里渡 一府川 一神崎 一小美川 一松戸

一市川

一相定船場之外脇ニテ濫ニ往還之者不可渡之事

一女人手負其外不審成者何レノ船場ニテモ留置盡

至於江戶可申之但酒并備後守手形於有之者無異

出參書 氏德編年集卷九十一 ○十五

儀可通之事

一隣郷へ里通之者前ノ船渡所可渡之女人手負之外不審成者ヲハ其所之役人又ハ代官ノ手形ヲ以テ可渡事

一酒井備後守手形雖有之本船場之外者女人手負又ハ不審成者一切不可渡之事一粟林
一惣シテ江戸へ相越者不可改之事一本
右條ニ於相背者可被處嚴科者也

元和二年八月日

奉行

○神君へ勤仕ノ輩駿府ヲ去テ武江ニ下着スヘキ故其宅地ヲ賜ルヘシトテ田安御門ノ下地西ヨリ清水

御門ノ邊へ流ル江戸川ヲ本郷ノ臺へ堀通シ淺草川へ流スヘキ旨議セラレケルカ吉祥寺ノ前ヲ堀通シ柳原筋ヨリ淺草川へ落シ川ノ土ヲ以テ地形ニ直シ神山大明神ヲ湯島ノ邊へ遷シ祭り新川ヨリ東南屋敷割メ則駿府ヨリ引移ル地ナレハ駿河臺ト稱セテレ或ハ鷹匠町猿樂町臺所等ト名付テ是ヲ宅地ニ賜ト云々阿倍四郎五郎正之川中島ノ成就ヲ遂テ歸參シ新川ノ奉行トメ當月ニ至テ成就ス
○或曰神田大明神ノ社ハ大御臺所ヨリ御建立アリ幡隨院ハ下谷へ本妙寺ハ丸山へ其餘小石川邊ノ神社佛閣悉ク遠ニ移サルト云々

九月小

出參

武惠編年集

卷九十一

十六

十月十三日 台徳公ノ次君國丸後大納言甲州ノ國二

封セラル都留郡谷村ノ城主鳥居士佐守成次彦右衛門元忠

也子元老トメ附屬加恩アリテ都合三萬五千石ヲ領ス朝倉筑後守宣正

是又成次力列ト成リ増封有テ其高二萬五千石ニ成

ル且大御番ヨリ五十四人國丸君ノ近臣ト成ル

松平作右衛門本多四郎左衛門算十左衛門河野

四郎左衛門細井金太夫松平忠兵衛戸田藤右衛

門戸田六兵衛小林佐次兵衛櫻井市右衛門伊丹

彌五右衛門小笠原與左衛門勝屋勘左衛門朝比

奈六左衛門飯河善左衛門鈴木權兵衛兩宮半右

衛門米津才兵衛高尾勘右衛門森川半右衛門森

川善太夫森川介右衛門三枝清右衛門桑島惣十

郎富永彌次右衛門秋山太郎兵衛飯塚半次郎大

久保茂左衛門三宅小十郎坂本權十郎太井長右

衛門青木八兵衛山上三右衛門關九右衛門中根

五兵衛牛込三左衛門逸見市之丞平林勘次郎江

原九郎右衛門高木彌右衛門松平傳六郎駒井次

鹽七右衛門飯室與兵衛河合善兵衛小林吉太夫

都筑三四郎太田甚九郎朝比奈吉兵衛筒井七郎

左衛門秋山市左衛門

武河衆是ヨリ下皆當時甲府ノ城定番也則附屬セラル

出參

武河衆

城定番也

則附屬セラル

出參

武河衆

城定番也

則附屬セラル

出參

武德編年集成卷九十一
〇廿七

青木與兵衛山寺甚左衛門葛木新八郎山高孫兵

衛朱倉左大夫采倉嘉左衛門入戸野又兵衛曲淵

縫殿左衛門

津金家小尾彦左衛門津金又十郎

七九衆水原内匠花村忠兵衛内川七左衛門山田六

右太刀月録ヲ以テ國丸君へ拜謁ス此武河家八甲州

二在衛スル分也武藏ノ鉢形ニ住スル武河ノ舊士七

同夕附屬セラルヘシト云ヘ凡各歎訴メ免除アリ山

高三左衛門一人願望メ國丸君ニ仕フト云々

武德編年集成卷九十一終

武德編年集成卷九十一終

武德編年集成卷之九十二

木村高敦 撰

元和二丙辰年

九月小

〇十五日 大猷公于時奉稱竹千代君傳臣トメ酒井備後守忠

利青山伯耆守忠俊内藤若狹守清次ヲ附屬シ玉フ且

富士牧狩十番切座席勤衛トメ書院番花畑番ノ内ヨ

リ撰テ六十一人ヲ附ラレ四組ニメ伴頭一人宛アリ

一番ノ伴頭ハ松平清三郎後藤七郎跡役夕リ二番ハ戸

塚作石衛門三郎跡役夕リ三番ハ松平友之介四番

ハ鷄殿新三郎ト云々

武德編年集成卷九十二

酒井五郎助後任因幡守久五郎渡邊兵九郎後改吉左

門平川五郎兵衛本多山三郎後改四郎兵坪内久太郎

遠山久四郎後改清右衛門淺羽孫三郎成瀬長四郎後改七兵

衛柴山甚太郎菅沼宗次郎後改次郎右衛門三枝新九郎

楢垣藤七郎後任若狹守小澤權之丞鯨江甚右衛門後改

宮城氏止越前守神尾内記後任備前守市岡太左衛門渥美九

郎兵衛後改九兵衛菅沼作十郎三枝宗四郎後任土佐守伊

勢作十郎井上清兵衛後任筑後守植村權兵衛秋山

後任修理亮安藤傳十郎高田藤五郎後改左衛門永田

四郎三郎倉橋三五郎後改長右衛門玉蟲助太夫門奈傳

八郎後改助右衛門加藤勘右衛門土屋左門後改忠兵衛伊達

庄兵衛牧太兵衛後改助右衛門水野傳藏戸田數馬後改宗右

門中野右兵衛多田三吉後改所左衛門小川惣三郎戸田

塚五郎後任備前守田村今太郎保々長兵衛後任石戸見守

田又久宮崎左馬介後任備前守山角藤兵衛松平采女

後改五左衛門河田助兵衛佐野右衛門八大久保右衛門

入曾我彌五八大野平兵衛梶川小十郎後改平營左衛門

沼左衛門渡邊忠四郎河村善七郎中根傳七郎後任

大隅朝比奈彌一郎

右番頭是無伴頭比二惣子六十一人富士卷侍曾我十番切ノ繪座席二

勤衛 ○十九日并與兵衛宗直享年七十九歳二又斗

○廿八日參州以來ノ烈士小栗又一忠政享年六十

出參齋後誓 武德編三集或卷九十二 二

二歳二人卒又○廿九日老臣ヨリ掟ヲ下ス

定

一喧嘩口論有之時至其場一切不可出合事

一科人物罪之刻申付者之外出其場不可出向事

一町中火事出来之節下ニ至迄一切不可馳集但

於奉公人訴者其親子兄弟縁者ハ不苦其外縱雖

爲知音之好不可出合事

右條ニ堅可相守之若於違背之輩者忽可處嚴科者也

元和二年九月二十九日

○山田清大夫重次門奈介左衛門宗勝伏見ノ町司卜

成ル元和七年酉年ヨリ此
兩人駿府町司卜ナル

十月大

○三日烟草益制禁島ニ彼草ヲ作ル者過怠トメ牢舎

タルヘシ其所ノ代官過料錢五貫文村中惣百姓ヨリ

一人ニテ過料錢百文宛出スヘシ道路橋梁前ニノ如

ク修補スヘシ油斷アラハ代官過料錢五貫文出入ヘ

キ旨令ヲ下スヘキ由 鈞命アリ○六日清水平左衛

門正親平ス嗣子恒豐家督ヲ繼テ又平左衛門卜掟シ

後年大御番頭卜成ル此恒豐方祖父山名右衛門佐

亮熙ハ秀頼ニ仕ヘ二千石ヲ領シ大坂城落去以後其

子與五郎亮政卜氏ニ一族禪高力許ニ蟄居ス恒豐ハ
亮政子

也沼水ハ一族ユ恒豐ハ
亮政子○十五日上總今忠輝朝臣没收ノ地

也沼水ハ一族ユ恒豐ハ
亮政子○十五日上總今忠輝朝臣没收ノ地

ヲ諸將二宛行ハル

越後國高田城十萬石 元ハ上州高崎七萬石

酒井左衛門尉家次

同長岡城八萬石 元ハ信州飯山四萬石 堀丹後守直寄

同長嶺五萬石 元ハ野州天明 牧野駿河守忠成

同三條城四萬三千石 元ハ伯州矢橋三萬五千石或ハ元和三年八月三條へ待替

市橋下總守長勝

同刈羽一萬石 元ハ 稻垣平左衛門重衣 後任攝津守

松平伊豫守忠昌

信州松代城十二萬石

佐久間備前守安政

同飯山城三萬石

同長沼城一萬三千石 同大膳亮安次 後改勝之

播州明石城十萬石 元ハ信州松本八萬石

小笠原右近大夫忠真

日州肥田六萬石 元ハ濃州大垣五萬石 石川主殿頭忠總

濃州大垣城五萬石 元ハ下總關宿四萬石

松平甲斐守忠良

上州高崎城五萬石 元ハ常州笠間三萬石

松平丹波守康長

肥前島原六萬石 改原城築新城住之。元ハ和州五條四萬五千石

松倉豊後守重政

下総河内領常陸下間庄三萬石 元ハ野州山川一萬五千石

拾遺齋書目 正徳紀年集 卷之十一 〇四

松平越中守定綱

○廿五日織田辰之助信州從五位下二叙シ刑部大輔
二件又是ハ故上野公信包入道老大力二男也○廿六
日天海僧正 御遺命ノ由ヲ稱シ久能山ノ 神靈ヲ
野州日光山ニ遷シ祭ラルヘシトテ藤堂和泉守高虎
本多上野公正純ヲ奉行トシテ其副使ニハ日根野織
部正吉明本多藤四郎正盛山代宮内少輔忠久糟屋新
三郎命ヲ蒙御手傳トメ日光近境ノ大小名人夫ヲ率
テ登山ス地形ノ繩張等天海是ヲ沙汰シ來四月以前
二 御廟神祠悉ク造畢スヘキ 命アリ庶民ハ招カ
スメ雲ノ如ニ集リ工匠ハ霞ノ如ク來リ晝夜ヲ分夕

ス是ヲ經リ是ヲ營ム阿陪四郎五郎正之ハ材木ヲ河
陸共ニ運送スルヲヲ汰スト云々

十一月大

○七日佐久間河内守政實享年五十六歲二人卒ス
○十五日恒岡原兵衛資久始テ 台徳公へ拜謁ス
○十九日濃州揖斐ノ城主西尾豊後守光教享年七十
三歳二人卒ス嗣子ナキ故ニ外孫三人へ家督ヲ配分
ス○廿九日織田内府信雄入道常真ノ子勝法師信良
從五位下侍從兼兵部大輔二任叙ス

十二月小

○十一日別所孫次郎友治新宅ノ風呂ニ始テ浴セシ

掛修業書 正統年集 成卷九十一 二〇五

ト欲シテ伊東掃部介祐時桑山左衛門一晴ヲ招テ饗
應ス桑山ハ今宵叔父佐久間大膳亮勝之カ女嫁娶ノ
事アル故申ノ刻ニ暇ヲ告テ歸ラントシケルヲ孫次
郎頻リニ袖ヲ扣ヘ婚禮ノ刻限暫ク間有ヘシトテ又
酒ヲ勸メ數獻ニ及ンテ伊東別所亂醉ニ至ル桑山ハ
彼ノ故障アルユヘ慎テ沈醉ニ至ラス別所友治妄リ
ニ謂テ曰今年堀丹後守松倉豊後守ニ大阪ノ戦功ヲ
賞シ領知ヲ轉シ役高増封アリ松倉カ如キ怯弱ノ者
而反ニ四萬石加恩アル上ハ友治カ如キ忠勇ノ士ニ
ハ十萬石ヲモ賜ルヘキト也ト罵ル伊東掃部介ハ松
倉カ朋友ナレハ是ヲ聞ニ堪ス友治亂醉ユヘ歎武夫

ノ道ヲ忘レ惡言也予豊後守ト芝蘭ノ好ムアルヲ用
テ云ヘルハ予ニ對メ大ニ禮ニ背クト云ヘ凡此席ハ
狂言ニメ黙止スヘシ何來此詞ヲ聞カハ堪忍スヘカ
ラスト云ニ別所笑テ臆病第一ノ松倉ト朋友タラハ
汝カ志モ察スヘシ類ヲ以テ聚ルト云ヘハ慥ニ汝モ
豊後守同前ノ臆病ナルヘシト云フ伊東怒ニ堪ス別
所カ頭ヲ扇ヲ以テ是ヲ打タレハ孫次郎九寸九分ノ
小脇指ヲ拔テ忽掃部介ヲ突時ニ桑山左衛門佐二人
ノ間ニ入孫次郎ヲ押留ル内ニ酌ニ在ケル小童小脇
指ヲ拔テ掃部介ヲ後ヨリ斬ル左衛門佐又彼小童ヲ
押ヘントスル處ニ孫次郎カ子孫之丞並家士數十群

掛修業書 正統年集 成卷九十一 二〇六

參メ伊東ヲ打殺ス掃部介カ從者玄關ヨリ亂入セシ
トスル處口ニ左衛門佐右ノ指ニ疵ヲ破ナカラ馳出
テ鬪爭終テ伊東ハ恙ナシ汝等亂入セハ主ノ身危カ
ラント制止ス佐久間大膳亮勝之忽馳來テ左衛門佐
ニ始終ノ下ヲ聞届テ奉行ノ宅ニ赴キ是ヲ達シケレ
ハ則 上聽ニ及テ其夜大膳亮ニ御使番野ノ山四郎
右衛門ヲ漆テ檢使トメ別所ニ死ヲ賜フ別所伊東カ
子谷及逐セラレ桑山ハ蟄居ス或ハ伊東カ一族桑山
モ別所ニ與シ伊東ヲ斬ラシムル由ヲ訴フト云ヘ
虚妄ナルユヘ桑山罪ニ遁シ彼掃部介ハ金森法印素
玄カ實子ニメ伊東氏ヲ相續ス○十八日野州烏山

城主成田左衛門佐長忠卒ス其長子新十郎長邦先達
テ殺シ嫡孫新五郎房長アリト云ヘ此僅ニ歳タルユ
ヘ長忠カ二男左馬今氏宗ヲ以テ家督トシ烏山ノ城
地ヲ賜リ房長十五歳迄是ヲ輔ケ公務ヲ執スヘキ旨
命セララル

○梅ル二元和八壬戌年左馬今氏宗早世ス故アリ
テ其遺領ヲ没収セラル時ニ新五郎房長嘆訴スト
云ヘ氏御許容ナク遂ニ成田ノ家斷絶ス

○廿六日仙臺參議政宗子越前守忠宗侍從ニ任ス京
極丹後守高知カ長男高廣ハ高家タルユヘ御諱字ヲ
賜リ忠高ト改メ從五位下ニ敘シ直ニ侍從ニ任ス

○早日尾張侯義直與富四月以後一旦歸國有テ又駿
州ニ至リ久能山ノ神廟ニ詣メ武江ヘ參勤セラル處
今以居館ナキ故本多美濃守忠政カ宅ヲ借テ暫ク住
シ玉フ駿河侯賴宣卿ハ則ニ神君御在世ノ時駿河遠
江ニ於テ五十二萬石ヲ封セラレシ故則駿州府中ヲ
居城トシ玉ヒ同ク東武ニ參勤セラル是又居館ナキ
ユヘ西丸下或屋形ヲ借テ是ニ暫ク住シ玉フ遂ニ兩
卿ヘ北ノ丸ニ宅地ヲ使與セラルユヘ營住メ是ニ
移リ玉フ○是年北條出羽守氏康相州其繩ノ城ヲ改
遠州久野ノ邑ヲ賜フ穀高元ノ如ト云々木下宮内少
輔利房備中賀陽郡足守二萬五千石ヲ賜リ其高増封

アリ○永井信濃守尚政去夏ノ戰功ニ依テ武州菖蒲
江州滋賀郡ニ於テ五千石ヲ賜フ元ハ高千石也○前田大和
守利孝ニ上州七日市場一萬石ヲ賜フ○久永源兵衛
重賴坂部三十郎廣勝ニ二千石宛ラ加賜フ其外千石
ヲ水野三左衛門元綱後任備後守七百石ヲ酒井大膳勝吉
五百石ヲ喜多見五郎左衛門勝重ニ加恩アリト云々
○御使番兼松源兵衛正成ヲ尾州義直卿ヘ附屬セラ
レ其父修理亮正言往年ヨリ彼卿ニ勤仕ス是ニ因テ
正言カ家督ヲ源兵衛相續テ其取來ル七百石ヲ八源
兵衛カ長男又四郎正長ニ讓リ正長ヲ大猷公ニ仕
ヘシムルト云々○松平隱岐守定勝カ庶子定房後任美濃

武徳編年集成卷九十二

守新庄内匠直次柳生七郎三嚴後改十北條新藏氏長

本氏九鳥時二六歳北條土屋辰之少敷直時二十三歳

新左衛門繁廣カ孤子也等幼維二メ始テ台徳公へ拜謁ス○宗義成參府ス

亡父義智カ跡職ヲ襲テ對馬守ト稱スヘキ旨一鈞命

アリテ且從四位下ニ叙シ侍從ニ任ス○新庄越前守

直定御奏者番ト成ル○谷出羽守衛友御咄衆ト成ル

三宅惣右衛門康信惣右衛門康貞子佐久間佐兵衛勝年大勝亮勝

之關兵部氏盛長門守一從養子從五位下ニ叙ス康信ハ越後

守ニ任シ勝年ハ信濃守ニ任シ氏盛ハ安藝守ニ任ス

○安陪彌一郎信盛御書院組頭ト成リ步平ノ頭ヲ兼

役ス松平志摩守重成步平ノ頭ト成リ天野小三郎長

信後任豊前守御納戸頭トナル○寛勘右衛門元成享年六

十一歳ニメ卒ス元成初金平ト稱シ長久手ノ役ニ功

アリ是人ハ廣忠君ノ密旨ニ依テ松平三左衛門忠

倫ヲ害セシ平三郎重成後改勘左衛門カ嫡子也

武徳編年集成卷九十二終

武徳編年集成卷九十二

御神號ヲ御贈位并二日光山ノ神廟創建之畧記
元和三丁巳年
二月小
廿一日
祭闕ニ於テ陣ノ座ノ節會行ハレ
東照
大權現ト神號ヲ贈リ賜リ
宣下アリ上卿八日野權
大綱言弘資職事ハ廣橋頭辨兼賢也
三月小
九日正一位ヲ贈リ賜フ
十五日御遺命ニ依テ大
僧止天海是ヲ沙汰シ駿州久能山ニ葬リ奉ル所人
山參齋書
武德編年集成卷之九十三

武德編年集成卷之九十三

御神號ヲ御贈位并二日光山ノ神廟創建之畧記

元和三丁巳年

二月小

廿一日 祭闕ニ於テ陣ノ座ノ節會行ハレ 東照

大權現ト神號ヲ贈リ賜リ 宣下アリ上卿八日野權

大綱言弘資職事ハ廣橋頭辨兼賢也

三月小

九日正一位ヲ贈リ賜フ 十五日御遺命ニ依テ大

僧止天海是ヲ沙汰シ駿州久能山ニ葬リ奉ル所人

靈體ヲ野州日光山へ是ヲ遷シ祭ルへキ爲ニ寅人刻
天海及ヒ本多上野介正純土井大炊頭利勝松平右衛
門大夫正綱板倉内膳正重昌秋元但馬守泰朝祭主紳
原内記清久騎士三百雜卒千餘ヲ率テ久能山へ登リ
天海躬ヲ鋤鋤ヲ取テ其事ヲ下知ス是ハ大職冠録足
公ヲ和州多武峯へ改メ葬シニ擬セラル所也即日ニ
靈柩當山ヲ發シ玉フ右ノ族且尾陽義直卿駿陽賴宣
卿水戸頼房卿ノ元老成瀬隼人正正成安藤帶刀有次
中山備前守信吉比叡山且關東ノ天台宗ノ碩學等供
奉スト云○十六日 靈柩豆州三島ニ着御爰二一日
止ラセ玉フ○十七日 台徳公武江三縁山増上寺ノ

御靈屋へ御參詣アリ淨土宗ニテハ 德蓮社崇譽道
和大居士ト謚號シ 御靈屋ヲ 安國殿ト稱シ奉ル
○十八日 靈柩相州小田原ニ着御爰二一日止ラセ
玉フ○廿日 靈柩相州中原ニ着御爰二一日止ラセ
玉フ○廿一日 靈柩武州ノ府中ニ着御爰二兩日止
ラセ玉フ○廿四日 靈柩武州仙波ニ至ラセ玉フ亦
兩日止ラセ玉フ廿六日ニハ天海衆僧ヲ請シ法華經ヲ讀誦ス○廿七日
靈柩武州忍ニ着御○廿八日 靈柩野州佐野ニ着御
此所ハ本多上野介領知スルユへ犬伏ト天明ノ間春
日岡寺ニ新夕ニ假殿ヲ設ケ 靈柩ヲ入奉ル○廿九
日 靈柩野州鹿沼ニ着御惡日タルユへ逆施ナリ此
出參齋書 武徳廟三集卷九十三

所二四月三日迄止ラセ夕下フ既二日光山ニ於テ
東照大權現人御本社本地堂回廊御供所并ニ御廐等
悉ク造畢又
○四月六日
○四日未ノ刻
靈柩日光山ノ座禪院ニ入セ玉フ
○八日
靈柩ヲ御本社ノ上人山奥ノ院ノ御廟塔ニ
遷シ奉ル○十四日
神靈ヲ假ノ御神殿へ移ス日台
徳公御出座 敕使廣橋權大納言兼勝西三條權大納
言實條并ニ奉行烏丸石中辨光廣 宣命使阿野參議
實顯 奉幣使清閑寺參議共房 仙洞使日野權大納
言弘資等羣參シテ 東照大權現卜崇メ祭ル○十五

日 台徳公 御社參アリ○十六日 神靈ヲ 御本
社正 敕ニ遷シ奉ル 勅使以下諸卿出座一昨日ニ違
ハス但シ今日ヨリ 奉幣使ハ中御門參議議宜卿也
○十七日 御本社ニ於テ 勅會ノ御法事アリ導師
ハ唐井御門跡最胤親王執蓋ハ西洞院參議時直執綱
ハ唐橋氏部少輔壬生極藤也 勅使ヲ始メ最初ノ如
ク諸卿出座ス 台徳公 御社參御太刀ハ吉良侍從
義爾御劍ハ酒井下總守忠政御裾ハ永井信濃守尙政
是ヲ役ス奉幣ハ八澤少將基胤ト云々○十九日奥ノ
院 御廟塔供養法華經一萬部讀誦今日ヨリ始リ且
藥師堂供養遂行ハレ被物御施莫太ト云

出 卷九 三

元初四戊午年

四月大

○十七日 御本社ノ御華表筑前大守黒田長政建立
高サ上ノ笠石迄二丈八尺兩柱ノ間二丈二尺柱ノ巨
リ三尺五寸是ハ筑前志摩郡小金村ノ南山ヨリ出ル
處ノ石也南海ヲ回ラシ是ヲ獻ス大國ニ封セラレシ
共恩ヲ射スル處也ト云

寛永十三丙子年

三月小

○二日 朝庭ニ於テ陣ノ座ノ節會行ハル抑 當今
ノ皇德 大樹家光ノ武德四夷八荒ニ及ヒ絶タル

ヲ繼キ廢レタルヲ起シ善政頻リニ行ルノ序本

朝ハ 神國タル故往昔諸國ノ 大社二十年ニ一度

必ス造替アリ是則伊勢 内外宮皇天ノ室基ヨリ起

レリ然レモ元亨建武以來神稅次第ニ散失メ禮奠懈

ルコヲ歎セラレ漸ク其故キヲ尋玉フ既ニ今丙子

東照ノ脚廂修營ノ天順ノ來ルヲ以テ幕府秋元但馬

守奏朝ニ 鈞命有テ山口祭ノ日ヨリ天下ノ工匠ヲ

集メ日光山人 神殿ヲ新ニ經營セラル處風雨節ヲ

違ヘス庶民雲ノ如霞ノ如競ヒ集リ夜ヲ以テ日ニ繼

テ功既ニ成ス是ニ依テ陣座行ハレ 御正體ヲ新營

ノ御本社ニ遷サルヘキ日時ヲ陰陽頭加茂友景ニ

詔ヲ下シ考ヲナサシメ玉フ上卿ハ轉法輪權大納言
實秀奉行職事ハ鷲尾頭中將隆景是ヲ沙汰スル所ニ
日時四月十日甲申亥ノ刻ニ定リ是ヲ奏ス○同日午
ノ刻東照入權現一社ノ奉幣使發遣ノ儀ニ依テ
陣ノ座行ハル上卿職事ハ右ニ同シ但シ宮方ヲ兼テ
豫メ官幣ノ事ヲ下知スト云○五日陣ノ座行ハレ日
光山藥師堂供養日時ノ定アリ上卿ハ勸修寺權中納
言經廣奉行職事ハ鷲尾頭中將隆景宮方日野右少辨
也日時四月十九日辰ノ刻ニ決シ是ヲ奏聞ス

四月六

○十日天日光山ニ於テ亥刻ニ東照大權現新營ノ

神殿へ日吉ノ社官御靈ノ社僧集會シ日光ノ社司上
氏ニ神體ヲ假殿ヨリ遷シ奉ル天海僧正且松平
右衛門大夫正綱初稱正久板倉内膳正重昌秋元但馬守泰
朝供半セシム所ノ守衛辻ノ勤番ハ近國御譜代
ノ大小名等仰ヲ蒙リ是ヲ沙汰ス奉行職事頭中將
隆景初臣人下知ニ依テ大外記中原師生官務壬生忠
利出納中原職在等諸司ヲ催シ其役ニ課入烏丸權
大納言光廣廣橋權大納言兼賢高倉權中納言永慶飛
鳥井權中納言雅宣小川坊城參議左大辨俊完遲參ニ
依テ御正體既ニ御鎮座ノ後拜殿右ノ方ニ着座ア
リ其程ニ神饌ヲ供シ伶倫樂ヲ奏シ衆僧法會ヲ行

フ○十一日辰ノ上刻、敕使以下悉ク御神前ニ參
向奉幣使姉小路參議公景拜殿南ノ端北面ニ着座ス
内藏寮大藏省詞進ノ官幣唐櫃ニ入テ御神前へ幣
士捧入ル時公景起テ幣物ヲ納ム次ニ日野賢勝御劍
ヲ持參シ外陣ノ高杙ノ上ニ置テ退ク次ニ仙洞ヨ
リ御奉納ノ御劍烏丸光廣持參同所ニ於テ退ク次ニ
國母ノ御方ヨリ御奉納ノ御鏡ニ面小葵蒔繪梨子地
ノ箱ニ合ニ人廣橋兼賢兩度ニ持參シ是ヲ置テ退去
ス次ニ堀川康胤拜殿ノ中央ニ入宣命ヲ讀畢又其
間ニ御馬二匹ヲ左馬允松久右馬允武教是ヲ牽凡ソ
舊式ニハ奉幣使一人ニメ幣物御劍奉納ノ宣命使

武德編年集成卷九十三 五

ヲモ兼ルニ若又 敕使公卿ノ節ハ次官一人隨逐シ
勤仕セシムルト云ヘ凡此度ハ嚴重ノ御沙汰ニ依テ
此ノ如ク宣命ノ詞モ亦古例ニ異也嗚呼寔ニ 神德
ノ光輝ト謂フヘシ○十三日 大猷公御發駕武州越
谷ノ御旅館ニ御泊ト云○十四日 下總古河ノ城ニ
御泊リ城主土井大炊頭利勝也○十五日 野州今市ノ御殿ニ着
御今日ヨリ日光山 御神前ニテ法會開闢○十七日
今市ヨリ日光御殿ニ着御誓ク有テ東照大權現御
祭禮御拜見トメ御棧敷へ渡御誠ニ 神幸ノ次第供
奉ノ行粧他ニ異也祭主從二位神原照久初ハ大行東
帶騎馬布衣四人素袍着十人白丁十人傘持一人ヲ攜

出參齋嚴書 武德編年集成卷九十三 六

テ供奉セシム。迂ノ警固ハ御譜代大名ノ陪臣是ヲ
勤ム事畢テ元ノ御殿へ還御シ、束帶ヲ着サセ玉ヒ新
營ノ御本社へ詣テサセ玉フ時、二御簾ハ堀田加賀
守正盛御裾ハ阿部豊後守忠秋是ヲ役ス吉良侍從義
冬奉幣ヲ捧ク酒井讚岐守忠勝御劔ヲ捧ク納メ朝鮮
ヨリ獻ル龍蹄ヲ牽セ納ム且奥ノ院ノ御廟塔へ詣
サセ玉フ御拜殿左ノ方北ノ上西南ニ御着座アリ東
ノ上北面ニ尾州紀州水戸三卿侍坐右ノ方東面ニ西
三條前内大臣實條日野資勝着坐御戒師天海僧正證
明梶井最胤法親王同久新宮慈胤法親王毘沙門堂門
跡權僧正公海戒灌ノ時會勤行アリ伶倫三十二相ノ

舞樂ヲ奏ス元ノ御殿へ還御○十八日職事左少辨安
光勅ヲ蒙リ拜殿ニ於テ法會供養ヲ執行フ禁裏
ヨリ御布施トメ綿子千屯國絹千匹ヲ衆僧ニ賜フ西
三條前内大臣實條裝束一日出坐鷹司右大臣教平公ヲ
始月卿雲客各束帶着座大猷公ハ拜殿左ノ方北ノ上
西面ニ御着坐彦根少將直孝郡山侍從忠明古河侍
從剛勝若狹侍從忠勝等ハ階下ニ蹲踞ス吉良少將義
彌ハ花籠ヲ役シ同侍從義冬ハ左ノ末東ノ上北面ニ
侍坐セシム導師大僧正天海梶井最胤法親王同新宮
慈胤法親王妙法院堯然法親王青蓮院尊純法親王毘
沙門堂權僧正公海出座セラレ被物三重宛ヲ賜リ前

内大臣以下是ヲ役セラル其外衆僧被物ヲ并戴ス今
宵ハ法眼祐孝 御神前ニテ護摩ヲ勤行ス○十九日
本地藥師堂供養也公卿雲客出席ノ執行セラル萬端
昨日ノ如シ鷹司殿許ハ今日出座ナシ大猷公モ渡
御御着座アリ申ノ刻今市ノ御殿へ還御暫ク有テ御
發賀御旅泊ノ次第前二同シ惣奉行讃岐守忠勝ハ供
奉セシム○廿一日江城へ還着シ玉ヲ今日ヨリ遠近
ノ衆僧七千餘人ヲ 御神前ニテ萬部ノ法華轉讀ア
リ神原二位照久高力攝津守忠房丹藤伊賀守忠重松
平右衛門大夫正綱板倉内膳正重昌秋元但馬守泰朝
秋山修理亮正勝宮城越前守和甫等走テ執行ス○廿

二日導師天海僧正へ御布施トメ白銀二萬兩毗沙門
堂公海僧正へ同五千兩其外僧正院家役者以下へ或
ハ二千兩五百兩三百兩一百兩是ヲ賜フ衆僧へ青銅
三萬三千貫綿子千屯國絹千匹日光物山中へ白銀五
萬兩ヲ下シ玉ヲ今宵法會結願ト云○廿四日日光山
銅華表人内舞臺ヲ構へ四座ノ猿樂アリ御門跡方公
御殿上人僧侶棧敷ニ臨テ見物スト云是諸社ノ例ニ
擬セラル者歟昨日六時力間ニ此棧敷ヲ構フ庄田秋
小左衛門島田郎左衛門奉行セシム秋
元但馬守並ニ奉行數輩珍味ヲ盡シ御門迹方公卿雲
客僧侶ヲ饗應ス

寛永十四丁丑年

江城紅葉山神廟御造管畧記

三月小

○廿七日酉二大猷公今度武城ノ殿閣改メ造ラセ玉
フヘキユヘ其朝ノ宗廟ヲ先トスルノ例ヲ以テ先ニ
郭内西紅葉山ノ勝地ニ東照大權現ノ廟墓ヲ築
ル小笠原右近將監忠真管監タリ時ニ御廟南向夕
ルヘシト羣議決斷メ台聽ニ達スル處東南氏ニ可
ナラシ然レモ彼ノ神號ニ擬メ東面タルヘシ御
神意ニ隨フヘキ吉日鈞命有ユヘ御作事奉行佐久間
將監實勝ヲ權僧正忠尊ニ告テ今日實勝齋戒メ増
上寺安國殿ノ靈前ニ於テ占闡ス請テ曰東一南二

ト然メ一ヲ得タリ再ヒ至リ三ヒ至テ皆然リ更ニ東
南ノ字ヲ片紙ニ書シ括テ二丸ト成シテ探リ開ケハ
又東ノ字ヲ得ル爰ニ於テ台慮ノ能ク神意ニ適當
シ玉フヲ信セスト云者ナシ源賴朝卿闔ヲ取テ地
ヲ定メテ鶴カ岡ノ神祠ヲ小林郷ニ遷シ祭ルト其
撥同ク其德厚キ者歟

四月大

○朔日巳紅葉山ノ神廟地形事始メ黎明ヨリ監檢
下吏羣參シ人夫雲ノ如ク霞ノ如ク踵ヲ繼テ競ヒ集
ル所ニ鶴一翼飛下リ居ケルヲ惣奉行小笠原忠真カ
元臣怪テ是ヲ捕ヘ獻セントスルニ大樹ノ日來此

參香... 大樹ノ日來此

武徳初年集成卷九十三
邊ニ馴養セラル所ノ鶴ユヘ是ヲ追返シ畢又暫久有
テ又雙鶴相率テ空ヨリ舞下リ其所ニ憩テ玄裳縞衣
羽儀端正ニ人ノ和氣舒暢タリ觀ル者拱向シ聞者靈奇
トス既ニメ東ニ飛去又鶴ハ羽族ノ靈長神仙ノ騏驎
也昔黃帝衆神ヲ會シテ鶴其石ニ舞フ故ニ曰聲天ニ
聞謂ヘシ祥瑞方ルト加之漢ノ宣帝ハ世祖ノ廟ヲ祀
ルニ鶴其庭ニ集ル帝岱宗ニ登望スルニ來テ壇上ニ
翔ル是具孝敬ノ然ラシムル處和漢其揆一也此上下
聽ニ達ス蓋シ大樹徃日不豫ノ色アリテ今漸ク平
安ニ就玉フ上姫君降誕辰喻月ニ當レリ唐帝初産ノ
日鶴飛舞スルト併セ按スヘシ實ニ泰平ノ瑞應天地

ト同シク疆キリナカルヘシ○五日癸卯兼テ撰定ノ
廟櫃繩ヲ督シテ右土ヲ祭リ玉ヒ鶴ノ祥瑞ヲ賀シテ
老臣昵近ノ諸臣ニ飲食ヲ賜リ舞案ヲ奏シ畢テ大僧
正天海ヲ始メ美服ヲ纏頭スル者若干ニ至ル儒臣羅
山子道春淳厚澤菴宗彭頌ヲ賦折節參府ノ鳥丸光廣
卿和歌ヲ詠ス
宮作リ始シキ神ノ御心ト
千年ヤ告テ鶴モ立舞フ
更ニ又ナトセハシルメ友鶴ノ
翼數フル神ノ廣庭ノ
常ニ咫尺セシ大橋長左衛門真政入道式部卿法印龍
出參齋嚴書式惠偏三集茂卷九十三

慶長和歌ヲ詠ス
武徳新集卷九十三

崇セス神ノ誓モ白鶴ノ

寛永十八辛巳年

諸侯ニ命シ日光山

東照大権現ノ御寶塔ヲ建ラ

松平伊豆守信綱阿部豊後守忠秋同
ル對馬守重次代彼山ニ至テ監檢ス

正保二乙酉年

○九月丁巳後光明院敕有テ東照大権現ノ宮號ヲ

賜フ宣命ヲ今出川權太納言經季是ヲ搦ヘ

下向ス今日管内ニ於テ御頂戴アリ○十七日丑日

光山 御前ニ於テ 宮號ノ 宣命ヲ經季是ヲ讀

ト云

慶安三庚寅年

六月大

○八日庚寅日光山相輪塔經營成就供養行ハレ 御名

代井伊鞆負伍直澄ヲ以テ雄劍龍蹄ヲ納メ玉フ此塔

ハ比叡山寶幢院ニ在ルヲ模寫セラルク處也

一東照宮御鎮座所

日光山下野國 東叡山武藏國 淨多院武藏國仙波

石 鳳來寺參河國設樂郡御神領五百 瀧山寺

參河國御神 龍華院遠江國御 長樂寺上野國

瀨六百十石 神領百石

世良田

武徳新集卷九十三

十一

御神領 慈賀院 近江國坂本御神 龍山寺 尾張國各

百石 護屋御御 雲光院 紀伊國和歌山 吉祥院 常陸國水

領千石 神領 神護院 加賀國金澤 利光院 備前國

領千石 正壽院 陸奥國會津 仙岳寺 陸奥國仙臺

千石 正壽院 御神領千石 仙岳寺 御神領千石

八日 御神領 正壽院 御神領千石 仙岳寺 御神領千石

武德編年集成卷九十三大尾

武德編年集成卷九十三大尾

目錄

